

遠野駅舎 中心市街地活性化 市民シンポジウム 2015

2015年5月12日開催

目次
Contents

- P_3 「遠野駅舎の未来を考える会」とは
- P_4 会長あいさつ
- P_5 先進事例講演
- P_6 パネルディスカッション
- P_10 市長あいさつ
- P_11 趣意書
- P_12 「遠野駅舎の未来を考える会」名簿

報告書

Report
The Symposium of Revitalization of city center 2015.



遠野駅舎への思いと、
新たなまちづくりへの思いが、
今、動き出す。



01 「遠野駅舎の未来を考える会」とは

「遠野駅舎の未来を考える会」は、市民が主体となり平成27年2月9日に結成した団体です。遠野駅舎の今後のあり方をJR東日本盛岡支社とともに検討し、中心市街地の活性化に結び付けてゆくことを目的としています。「やっぱり遠野は良いねと言えるまち」「子どもたちに自慢できる中心市街地」を目指し、市民の皆様をはじめ、市内外の遠野ファンの方々とまちづくりについて考え、活動してまいります。



- ◆平成27年1月23日(金) 遠野駅舎の未来を考える会臨時会議 ▷内容 遠野駅舎に関する情報共有
- ◆平成27年2月9日(月) 遠野駅舎の未来を考える会立ち上げ会議 ▷内容 立ち上げと趣意書の確認について
- ◆平成27年2月23日(月) JR盛岡支社へ趣意書を提出 ※P11に趣意書を掲載しています
- ◆平成27年3月12日(木) 遠野駅舎の未来を考える会ホームページ開設
- ◆平成27年3月18日(水) JR東日本盛岡支社訪問 ▷内容 遠野駅舎の現況確認について
- ◆平成27年4月1日(水) 会報「まっちゃんPRESS」創刊
- ◆平成27年4月30日(木) 遠野駅舎の未来を考える会第2回会議
- ◆平成27年5月7日(木) 会報「まっちゃんPRESS」第2号発行
- ◆平成27年5月12日(火) 遠野駅舎・中心市街地活性化市民シンポジウム開催
- ◆平成27年6月1日(月) 会報「まっちゃんPRESS」第3号発行

経過
Progress



遠野駅舎の未来を考える会
会長 河野 好宣

本市とともに発展してきた遠野駅舎は市民の宝

皆様、遠野駅舎・中心市街地活性化の市民シンポジウムに多くの方々のご参加をいただきありがとうございます。遠野駅舎と中心市街地活性化に対する関心の大きさの表れであると感じております。

さてここで、遠野駅舎に関する経緯を説明報告させていただきます。

平成27年の新しい年を迎えた1月中旬に、突然の新聞報道により、耐震上の課題から現在の遠野駅舎を解体し、3分の1程度の新駅舎を建築する計画が検討されていることが知らされました。この新聞報道があった一週間後に早速、遠野駅舎の未来を考える会の立ち上げに係る臨時会議が開催され、「何とか保存活用できないものか」「今回の駅舎の課題は中心市街地活性化のきっかけとしてチャンスでもある」などの多くの意見が市民から出されました。

この臨時会議を受け、2月9日、正式に「遠野駅舎の未来を考える会」が立ち上がり、JR東日本盛岡支社へ提出する趣意書の内容や今後のまちづくりに対する意見、今後の進め方について話し合いました。そして2月23日、本田市長と新田市議会議長等とともにJR東日本盛岡支社を訪ね、今後の整備方針等を私たち遠野市民と十

分な話し合いのもと、納得のうえで進めてほしい旨を記した趣意書を手渡し、要望致しました。

現在の遠野駅舎の歴史は、私たち市民とともに戦後の厳しい時代を乗り越え、本市の発展とともにあります。私の父の実家が旧駅舎の側でしたので、子どもの頃から停車場に遊びに行くといつて、おばあさんの作った「けいらん」(遠野の郷土菓子)などを食べた記憶があります。また線路の枕木を積んであるところで遊んだり、引き込み線のホームで遊んだりしておりました。中学卒業の頃には、同級生が集団就職で上京するのを遠野駅から見送った記憶など多くの思い出が詰まった駅舎です。市民の皆さんにとっても多くの思い出が詰まった駅舎であろうと思います。市民の皆様はもとより、遠野ゆかりの皆様、遠野を訪ねてくる皆様をはじめ多くの方々に愛され親しまれている駅舎であり、今後のまちづくりに欠かせない建物であります。これからも皆様からご意見ご要望を頂きながら、現在の重厚な風情を残した駅舎の活用方法を探ってまいりたいと思います。今回のシンポジウムを大きな足がかりに市民一丸となって取り組んで参りたいと思います。



「見世物づくりから本物づくりへ」～地方創生に向けて～

遠野に暮らす人々が 駅を行き来する風景こそ、本物の遠野。

青年海外協力協会
理事長 雄谷 良成 氏



遠野駅舎について結論から言いますと、あれだけ素晴らしい、遠野らしい、遠野ならではの駅舎を使わないで壊すという選択肢はどこにあるのかと思います。

さて遠野らしさとは何かと考えますと「ひと」なのではないかと思うのです。遠野駅舎のまわりに地元の人が行き交っていることが遠野の魅力ではないでしょうか。私のように外から遠野に来た人間は「遠野はすごいな」と感じます。はじめて遠野に来たときは、新花巻駅から遠野駅に列車で来ました。とても素晴らしい景色でした。遠野らしさとは、遠野で歴史を刻んできた高齢者や地元の人がたくさん歩いていること、その風景が「遠野」を感じられる「遠野ならではの風景」なのではないかと思います。遠野の「本物」は、「遠野の人」です。「遠野の人」が遠野駅舎の周りに集う仕組みを創り出すことが「本物の遠野」だと思うのです。

私の団体が行っている事業の1つに、JR西日本北陸本線の美川駅（石川県白山市）の管理委託事業があります。委託を受ける前は1日当たりの乗降者数が800人ほどだった駅が、委託を受けた後は1日あたり約1,500人が利用するようになりました。ガラの悪い人たちのたまり場になっていた駅だったのですが、私の団体が委託を

受けたことで、障がい者の方の就労の場としてカフェの運営や駅周辺の清掃を行なったところ、ガラの悪い人たちが駅に寄り付かなくなりました。障がいのある人たちが頑張る姿を見て気まずさを感じたのでしょうか。今では電車に乗らない高齢者や学生も集う憩いの場になりました。

駅というのは、駅だけだと思わなければ様々な活用方法があると思います。開かれた駅の仕組みを作ることが人の賑わいを生む。そこに、遠野の歴史を刻んだ、しわのひとつひとつを刻んだ高齢者が歩いていけば、それを見た観光客にとって、それはまさに「本物の遠野」を感じる場所になると思うのです。地域に開かれた駅舎になれば、様々な立場の人たちが集い、関わり合うことで化学反応が生まれ、必ずや駅舎を中心にまちが活性化されると確信しています。それだけの地域資源を遠野は持っています。

Profil

雄谷良成(おおよ・りょうせい)

金沢大学卒業後、青年海外協力隊(ドミニカ共和国、障害福祉指導者育成)、財団法人フンダシオン・オーサカ(ドミニカ共和国、医療過疎地病院建設)センター長、北國新聞社、金城大学非常勤講師等を経て、現在は、青年海外協力協会理事長と社会福祉法人佛子園理事長を兼務。石川県で福祉施設を核としたまちづくりを实践。平成26年3月に「Share金沢」設立。





コーディネーター

岩手県立大学総合政策学部
教授 吉野 英岐 氏

◎よしの・ひでき

慶應義塾大学社会学研究科社会学専攻単位取得満期退学後、社団法人農村生活総合研究センターに研究員として入所。その後、岩手県立大学総合政策学部へ助教として赴任。2006年に教授となり現在にいたる。専門分野は地域社会学で、コミュニティ研究のほか男女共同参画社会づくり支援活動も行う。



パネラー

アタカケンタロウ建築計画事務所
代表 安宅 研太郎 氏

◎あたか・けんたろう

アタカケンタロウ建築計画事務所(東京都)代表。中心市街地の空き家「三田屋」の復活を目指し大学生や高校生とともに町家の歴史や構造に至るまで調査し「三田屋」再建そのものをブランド化し、中心市街地の活性化に結びつける活動を行っている。



パネラー

遠野駅舎の未来を考える会
副会長 荒田 良治 氏

◎あらた・りょうじ

平成●年から遠野市観光協会会長。遠野駅舎を考える会には立ち上げ時から携わる、中心的存在。若手を巻き込んだまちづくりイベントも手がけている。



パネラー

遠野商工会指導グループ
副主幹 河内 夕希枝 氏

◎かわうち・ゆきえ

本市のTMO事業に携わり、第1期中心市街地活性化基本計画策定の中心的存在。遠野商工会指導グループ副主幹として遠野市の商工業発展に携わっている。

要旨
Summary

テーマ 「遠野駅舎と中心市街地のこれから」

吉野

本日、会場にお集まりの方々には、遠野駅舎を利用し、遠野駅に思い入れのある方々だと思います。駅舎をどうするかは単に駅舎の問題ではなく、まちをどうしていくかという問題といえます。本日は、まちづくりをテーマに3名の方々からお話を伺いながら、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

遠野駅舎への思い

荒田

私が子どもの頃は駅前に飲食店がたくさんあり、馬喰の人たちが胴巻きに札束を入れて歩いているのをよく

見かけました。駅には、「しょいっこ」という籠を背負ったおばちゃん達がいて、すごい元気な迫力に圧倒された記憶があります。しかし、時代の経過とともに駅のまわりも徐々に変化して、空き店舗が増えてきました。

そこで、中心市街地の空洞化に歯止めをかけるため、駅前にあずもあ遠野(まちおこしセンター)や旅の蔵遠野(観光交流センター)の整備等の駅前開発や蔵の道ひろば周辺の整備が行われました。こうして遠野の中心市街地が生まれ変わり始めたなと思っっている矢先に、駅舎の規模縮小による建替えという話が出てきました。

観光協会の会長としても、昔から住む住民としても立ち上が

らなければならないと思います、遠野駅舎の未来を考える会の副会長を務めさせていただいております。

今こそ、住民が立ち上がる時—

遠野駅舎については、まちづくりレベルで考えていかなければいけない課題ですし、まちづくりレベルで交渉を重ねていかなければいけないと考えています。

河内 私は遠野駅前の「あすもあ遠野」1階の遠野商工会の職員として働いております。ちょうど中心市街地活性化を遠野で取り組みだしたのが平成10年で、今の遠野駅舎の周辺整備は平成24年に完成しました。遠野駅舎の1日当たりの乗降者数は300人前後と非常に少ないですが、通行量として休日は約1,200人、平日でも約800人の方が往來しています。遠野駅舎は生活拠点として人が行き交う場所だということを示していると思います。

駅は文化を発信する拠点—

人々が交流する、文化を発信する拠点としての遠野駅舎は他の駅とは違う機能が備わっている駅だと思います。なんとか駅舎そのものもそうですし、遠野駅舎の機能も残ってほしいと思います。

安宅 私は、平成20年頃から遠野に携わるようになり、最初に遠野に来たとき感じたことは、釜石線の景色だとか、遠野駅舎に降り立ったときの雰囲気だとか、木造の跨線橋だとか、ブロック造の駅舎を通り抜ける体験が、想像していた遠野のイメージを全く裏切らない素晴らしい経験だったということです。

外から遠野に来る人は、遠野物語に代表されるような、日本の古き良きものが残っていることを期待して来ると思います。地元の営みや歴史に裏づけされた風景やまち並みを期待して遠野を訪れると思います。

歴史を重ねた風情に勝ものはない—

遠野駅舎はまさに遠野を体現しているもっとも大きな要素の

1つだと思います。現在の遠野駅舎を取り壊すなんて有り得ないこと。建替えという話が出てくるなんて信じられないことです。耐震改修する場合、実はいろいろなアイデアがあって、クリエイティブな仕事につながります。第一線で活躍する設計の方々と一緒にお金をかけない耐震改修のやり方を考えれば、解決策はあるのではないかと思います。

吉野 まちづくりは行政が主導というイメージがありますが、実際は住民のみなさんと企業が行政を巻き込み、まちづくりをいかに進めていくかが重要で、特に企業の力は欠くことのできない力です。企業の協力と理解、住民として何ができるか一緒に考えていくべき時代だと思います。

民間活力が問われる時代—

現在、政府が地方創生ということで地方の活性化に力を注いでいます。地方の人口を減らさないように進学、就職等をして地元に戻ってくることを促すまち、もしくはずっと住んでほしいまちの仕組みを作ろうとしています。

しかし、まち自体に魅力がなければ、なかなか人は戻ってきませんよね。ふるさとのイメージに合致する風景が残っていること。記憶と現実の接点が無ければ魅力は薄れてしまいますよね。自然、仏閣や神社、学校がある風景だけでなく、駅舎などの民間の力で支えてきた施設もふるさとの重要な要素だと思います。特に遠野の場合は遠野駅舎がある中心市街地の賑わいもふるさとの重要な要素といえます。

中心市街地への思い

吉野 中心市街地を活性化させることは遠野にとって大切なことです。次は、遠野の中心市街地について各パネリストの方々に発表していただきます。

荒田 HOPE計画(建設省による地域住宅計画)により昭和後期に大工町の整備が行われました。遠野町の第5・6・7・8区の行政区を越えての整備でした。HOPE計画ほど





の整備は難しいのかもしれませんが、駅前通りは遠野のメイン通りですから、空き店舗のファサード改修の必要性を感じます。

まちが動き始めている—

何にせよ、中心市街地の住民が本気にならなければ絶対無理だと思います。住民が真剣にならなければいけないというのが一番の課題だと感じています。

実際の活動としては、「ねまるべ遠野」という団体で駅前と中心市街地の活性化イベントとして「ちょい飲み遠野ではしご酒」や「バケツでジギスカン」といったイベントを開催しています。これらのイベントをパワーアップさせたり、融合させたりしながら波及効果、相乗効果を高められる仕組みを作っていければと思います。

河内 遠野の中心市街地の歴史を少しお話ししますと、区割は藩政時代にできたものですが、中心市街地の機能は遠野駅舎ができたことによって格段に進歩しました。遠野駅舎の徒歩圏内には市内の医療施設の約8割が集中しておりますし、銀行や公的機関も中心市街地に集積しています。

遠野はコンパクトシティを体現している—

国が目指しているコンパクトシティがもともと形成されている地域といえます。遠野市の第1期中心市街地活性化基本計画は平成21年から平成26年にかけて実施されました。私たちは第1期中心市街地活性化基本計画を作るときに中心市街地を単なる観光の拠点としてではなく、戦略情報発信拠点という位置づけ方をして、遠野駅周辺に遠野商工会、遠野市観光協会、遠野すずらん振興協同組合といった遠野の商業の要となる組織を集約して、市民にも観光客にもワンストップが可能となるよう整備しました。市の商工観光課と商工会が同居するあすもあ遠野のスタイルは、職員数が減少している中でも組織を超えて協力しやすい体制ということで検討した結果です。このことにより、商工関係団体を支援しやすくなりましたし、商工関係団体自体も活動しやすい環境を作ることができたと思います。今後はさらに中心市街地全体に波及させていくことが課題だと考えています。

安宅 平成24年から「遠野オフキャンパス」という活動を遠野市と一緒にはじめまして、その中のメインの活動が一日市通りにあります三田屋という昔呉服屋さんをやっていた家屋の改修です。この建物は空き家になって久しく、廃屋のような状態だったのですが、それを復活させて活用していけるような方法を探ろうというような活動をしています。今は復活の糸口を探っているところです。都内の専門家や大学生、遠野市内の高校生と一緒に建物の実測や解体、改修を行うといった活動を少しずつプログラムを組んで行っています。

まち場はもう一つの「ふるさと遠野」—

農村部の曲がり家に代表される「永遠の日本のふるさと遠野」のイメージに匹敵するまち版(市街地版)の「永遠の日本のふるさと遠野のまち並み」ができていくのではないかと期待しながらオフキャンパスに取り組んでいるところです。

吉野 遠野は古いまち並みが残っているところです。よく最近いわれることは、それらの古い建物を新しい形で活用しようということです。

リノベーションが必要となる時代—

これからの日本には「リノベーション」が必要です。多くの施設を作ってきましたのでリフォームだけでは次の世代につなげられない時代になりました。古い建物の中に新しい機能をいかに付加していくかが求められています。

遠野のこれから

吉野 遠野市の場合、遠野駅舎を駅としてきちんと残して、さらにどのように活用していくかが重要な点です。それでは最後に、これからの遠野をどのように盛り上げていか、お話ししたいと思います。

荒田 遠野の人というのは、「継承」を大切にしていると思います。市内には多くの社寺がありまして、親から子へ、

子から孫へ脈々と受け継がれています。

まちづくりは、若い人もお年寄りも一緒になって行わなければならないと思います。

遠野への思いは世代を越えて一

私は、市役所本庁舎やまちづくりについて考える「遠野のまちづくりについて考える市民ワークショップ」に参加し座長を務めさせていただいたのですが、高校生から70代までの人々が一緒に考える話し合う場をいただきました。その中で、様々なアイデアが出されました。駅舎については面白い意見も出され、銭湯がいいのではないかと意見がありました。

人が集う場所を考えたとき銭湯もいいかなと思います。銭湯が忙しいときは私も銭湯の番台に立つというのもいいです。様々な話を聞くとアイデアが出てきて、まんざらでもない楽しいまちづくりのアイデアがあると思います。

河内 遠野の中心市街地の活性化の主役は実は女性だと思います。駅周辺で行われているおもてなし事業は女性が中心となりできる範囲内で取り組まれています。

活性化の主役は女性一

商工会では、商店街の空き店舗家賃助成事業も行っており、市内で2～3件新規開業しています。自分たちの手仕事の作品を販売しようという女性もおります。そういう方々が駅の周辺で作品を販売したり、展示会をしたりすることで人が集う仕組みが出来てきて、にぎわいが生まれ、それらの情報が市内市外に発信されることで活気が生まれてくるのではないかなと思います。そして、様々な支援策を活用しながらも、やはり民間は民間の努力が必要だと思います。そしてそれを支えていくことが私たち商工会の役目だと考えています。

安宅 最近感じることは、若い人のライフスタイルに求めるものが変わってきていることです。雑貨、食材を買い求めるとき、大量生産された海外の誰が作ったか分からないものよりも、どこで誰が作ったものなのか分かるものを求めるようになってきたと思います。丁寧にきちんとそれらがどのよう

に作られたか理解して物を買ったり、暮らしていきたいという気持ちが高まってきていると思います。

古き良きものが遠野にはある一

都心では失われたものが、古きよきものが遠野にはきちんと残っていて、「永遠の日本のふるさと遠野」に本当に求められる姿、遠野を訪れる人たちが求めるものなんだと思います。遠野に移住したいという人の期待感、求めるものがそれなんだと思います。

遠野は盆地ですから、外からの影響を良い意味で受けにくいので自分たちが頑張れば頑張っただけまちをきれいにできるわけですから、すごく恵まれた環境にあると思います。

まちづくりの長期的ビジョンと短期ビジョンを設け、自分たちの恵まれた暮らしを見つめなおしていくことが重要ではないかと思っています。

吉野 遠野のまちに来ると古いものがたくさん残っていることに気づきます。しかし、今の時代、古いだけではダメです。耐震性や快適性などの課題があります。どこのまちでも古いまち並みが残っていると思いますが、そのまま残すのも難しいことですし、かといって全部壊して更地にしてしまえば中心市街地はなくなってしまうという矛盾を抱えながら、どこの自治体も悩みながらまちづくりを行っていると思います。

駅舎の整備を考えた場合、駅舎を小さくする、もしくは大きくして付加価値を高めるというやり方があると思いますが、遠野駅舎の場合はそのどちらでもなく、もともとの形を残しながら新しい機能を付けていく選択肢もあると思います。

住民・企業・行政の協力体制一

駅舎の今後の活用については、従来は行政が考えるべきことだったので、今は住民と企業が手をつなぎ取り組む時代です。

このような取り組みは東日本大震災以後で築かれてきた手法でもあります。東日本大震災の際に示された住民・企業・行政の協力体制の重要性を生かしたまちづくりがこれからの時代は求められているのだと思います。



古くて新しいものは世代を越えて輝き続ける



遠野市長
本田 敏秋

本日は、多くの方にお集まりいただきありがとうございます。今回の遠野駅舎・中心市街地活性化市民シンポジウムは「新たなまちづくりの思いが動き出す」というサブタイトルで開催しました。

本日は、全国中心市街地活性化推進協議会の総会がここ「あえりあ遠野」で行われましたので、和歌山県の神出海南市長、茨城県の中川土浦市長、そして本県の小沢奥州市長にも同席いただきました。また、国交省都市局の中村官民連携推進室長をはじめ、東北地方整備局と岩手県県土整備部からも同席いただきました。こうしてお集まりいただいたことで、市町村という水平連携、そして国県市町村という垂直連携の形をここ遠野で示すことができました。何より、これだけ多くの市民の皆さんにお集まりいただき、中心市街地の活性化をどのように図っていったらいいだろうかということとともに考える時間を作ることが出来ましたことを大変喜ばしく思います。先進事例の講演を行ってくれた青年海外協力協会の雄谷理事長からは石川県で取り組んでいる新たな発想で取り組む地域づくりについてお聴きすることが出来ました。遠野のまちづくりのコンセプトは「古くて新しいものは光り輝く」であります。古くて古いものは滅びます。新しいだけでは一過性で終わってしまいます。しかし、古くても磨きをかけ、新たな風を吹き込めば、光輝き廃れることはありません。

人口減少という厳しい現代でも、遠野には「自然・歴史・文化・風土」の4つの「場の力」があります。遠野駅舎はそのうちの3つ「歴史・文化・風土」の象徴でもあります。

廃屋となっていた旧三田屋の活用を考えたとき、本日のパネリストである安宅さんから言われました。「旧三

田屋の名称は三田屋でいいじゃないですか。何も新しいものを作る必要はないですよ」と。三田屋プロジェクトということで、市内の高校生にも参加してもらい、高校生もまちづくりのパートナーとして巻き込んだという力が「三田屋」という3文字にはあるということです。

「遠野」には大企業であるJR東日本と堂々と協議するだけの力があると確信しております。

柳田國男先生が著した「遠野物語」の冒頭には、当時の遠野の賑わいを示す「市の日は、馬千匹、人千人の賑わしさなりき」という一文があります。その柳田先生の生誕の地である兵庫県福崎町の嶋田町長から遠野駅舎の取り組みに対して激励のメッセージをいただきました。このように全国に遠野を応援してくれる仲間がいます。そして、ここにお集まりいただいた皆さんをはじめ市民の皆さんとともに中心市街地の活性化と遠野駅舎の課題に真正面から取り組んでまいりたいと思います。

遠野の駅

ふと帰ってみたくなる 遠野
ふと行ってみたくなる 遠野
銀河鉄道が発着する遠野の駅は
時間と空間がぎっしりと詰まった
素晴らしい駅でありますように

遠野駅舎の未来を考える会 御中

2015年4月30日

福崎町長 嶋田 正義

東日本旅客鉄道株式会社 執行役員 盛岡支社長 嶋 誠 治 様

JR釜石線遠野駅舎の維持・整備について遠野市は、四季が織りなす美しく広大な自然と、柳田國男が著した『遠野物語』の世界に、日本のふるさとと呼ばれる原風景を求めて年間200万人を超える観光客が訪れています。

本市の玄関口となる遠野駅は中心市街地に位置し、遠野駅を起点に商店街が広がっており、昭和25年に建てられた「ヨーロッパの建築様式を取り入れた石積みと思わせる重厚な趣きある硬質コンクリートブロック造りの駅舎」を中心市街地のシンボルとして街並みの整備に取り組んできたところであります。

昭和60年に策定した「遠野市HOPE計画(地域住宅計画)」による地場産木材をふんだんに使った潤い溢れる大工町通りを皮切りに、平成6年から整備が始まった下一日市地区区画整理地における城下町として栄えた町家文化の雅の趣きを伝える蔵造りの街並み景観と続き、平成21年には、さらなる中心市街地における人々の交流による賑わいの創出を進めるため「遠野市中心市街地活性化基本計画」を策定しました。

この計画のもと、遠野駅北側に市営住宅を建築、遠野駅前では駅舎の外観との景観を重視した洋館風のまちおこしセンター、町家と蔵を基調とした観光交流センターを整備するとともに、平成25年4月には、文化の拠点として「とおの昔話村」の大規模リニューアルを図った「とおの物語の館」が完成したところであります。

遠野駅舎を中心市街地整備のシンボルとして取り組んできたこれら一連の整備は「遠野物語を核とする民俗学と建築文化の振興および歴史的町並み修景の業績」として平成26年5月、国内で最も権威のある建築の賞「日本建築学会文化賞」を受賞しました。

現在、取組みを進めている第2期計画では、駅前通りの無電柱化、ポケットパークの再整備に加え、東日本大震災で被災した本庁舎の整備場所を、現在仮住まいしている駅前に隣接する遠野市中心市街地活性化センター(通称:とびあ)を活用しながら、その南側の一角に2階渡り廊下で接続する増築とし、さらなる中心市街地の活性化構想に向けて佳境に入ったところであります。

また、貴社の御努力により、平成26年4月に実現したSL銀河の運行は、本市への観光客の増加に反映され、地域の活性化に大きく結びついております。SL銀河と遠野駅舎が醸し出すノスタルジックな風情は、見る者すべてに愛される風景として定着しています。

「永遠の日本のふるさと遠野」を標榜し、豊富な地域資源を活かしたまちづくりを進める本市にとって、市民はもとより全国から訪れる多くの人々から、遠野にふさわしい建物と評判の高い遠野駅舎は、まさに遠野が持つ地域資源であり、遠野の歴史そのものであります。

今般、貴社から発表された「老朽化による遠野駅舎の縮小建て替え」を受け、本市では本年2月9日、市民による「遠野駅舎の未来を考える会」を正式に立ち上げ、現在の駅舎の存在意義や今後の対応などについて、市民、市及び市議会とともに考えていくことにしました。

つきましては、現在の駅舎を、中心市街地の象徴的存在として街並みの整備に取り組んできた本市のまちづくりの歴史とともに市民及び多くの遠野ファンの心情をお察しいただき、今後の遠野駅舎の整備方針、工事時期などについては、解体の可否を含めて、本市との十分な話し合いのもと、納得のうえでの決定としていただくよう御配慮賜りますことを要望いたします。

平成27年2月23日

遠野駅舎の未来を考える会会長 河野 好宣
遠 野 市・遠 野 市 議 会

遠野駅舎の未来を考える会名簿

市内企業・団体

遠野商工会
 遠野市観光協会
 遠野すずらん振興協同組合
 新穀町共栄会
 遠野駅通り商店会
 仲町共栄会
 遠野一日市商店街振興協同組合
 遠野下一日市まちや振興協同組合
 上組町同心会
 穀町商店街振興会
 石町商店会
 岩手県旅館ホテル生活衛生同業組合遠野支部
 協同組合遠野商業開発
 遠野市社会福祉協議会
 遠野市教育文化振興財団
 遠野町地域づくり連絡協議会
 遠野市区長連絡協議会
 遠野市老人クラブ連絡会
 遠野市地域婦人団体協議会
 遠野青年会議所
 遠野商工会青年部
 遠野商工会女性部
 で・くらす遠野
 遠野山・里暮らしネットワーク
 遠野まごころネット

ねまるべ遠野

遠野エコネット
 早池峰バス欄
 遠野交通欄
 ねまるきタクシー
 遠野市保育協会
 遠野市シルバー人材センター
 欄ノース
 欄びーぶる
 萩原印刷欄
 オヴェンセ遠野
 青年海外協力協会 JOCA
 富士ゼロックス欄復興推進室
 地方自治体公民連携研究財団
 東北電力株式会社遠野営業所
 日本郵便欄遠野郵便局
 日本郵便欄遠野新町郵便局
 欄岩手銀行遠野支店
 日本郵便欄遠野新町郵便局
 欄岩手銀行遠野支店
 欄東北銀行遠野支店
 欄北日本銀行遠野支店
 盛岡信用金庫遠野支店
 花巻信用金庫宮守支店
 花巻農業協同組合遠野支店
 岩手県建築士会遠野支部

岩手県建設業協会遠野支部

欄遠野
 遠野ふるさと公社
 欄遠野テレビ
 遠野高等学校生徒会
 遠野高等学校PTA
 遠野郷人会
 みやもりふるさと会
 遠野文化研究センター
 重要文化財千葉家住宅保存活用委員会
 遠野高校同窓会
 遠野高校首都圏同窓会
 遠野緑峰高校同窓会関東支部

賛同友好市町村

東京都武蔵野市
 熊本県菊池市
 宮崎県西米良村
 東京都三鷹市
 愛知県大府市
 兵庫県福崎町

賛同JR釜石線沿線自治体

花巻市
 釜石市
 住田町

私たちは、遠野駅舎を中心とした
 遠野のまちづくりを応援します！

2015年5月12日開催

遠野駅舎・中心市街地活性化市民シンポジウム

報告書

企画・作成 遠野駅舎の未来を考える会

編集・発行 遠野市経営企画部

印刷・製本 遠野コロニー

